

『今日は、「富士塚」についてのお話です。「富士塚」は富士信仰に基づき富士山に模して造営された人工の山や塚のことを言うでます。江戸時代には、「お富士さん」と親しまれ、現代では、「ミニチュア富士」(ミニ富士)とも呼ばれているでます。』



クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

□癖 でますん…



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)

『よく調べておるな。数年前、本屋で偶然見つけた「富士塚ゆる散歩」(有坂蓉子著)を購入したんじゃ。しかし、読むタイミングを逃して忘れていたんじゃよ。最近、思い出してな、読んだんじゃよ。なかなか興味深いことが書かれていたんじゃ。この本については後で紹介することにしよう。さて、富士講の開祖長谷川角行については、第79号で紹介したが、角行から6代目の弟子に「食行身禄(じきぎょうみろく)」という人がいるんじゃよ。富士山の7合5尺の鳥帽子岩で断食行をして絶命したんじゃ。修行しながら亡くなった人を、即身仏(そくしんぶつ)と言うが、身禄が即身仏となり、富士講は大流行したんじゃ。身禄の弟子に、高田藤四郎(日行)という人がてな、日行は造園業の技術を生かして江戸の高田水稲荷の境内に、高田富士を造ったんじゃ。これが最古の富士塚と言われているそうじゃ。現在高田富士(戸塚富士あるいは富塚富士)は、早稲田大学のキャンパスを拡張するときに、近隣の水稲荷神社へ移築されたと聞くぞ。普段は登拝できないそうじゃ。当時の場所に現存する富士塚としては、千駄ヶ谷富士が都内最古のもので東京都の有形民俗文化財に指定されているんじゃ。』

『富士山が日本人にとって、これほど大きな存在であることや、富士塚を知ることによって富士講の熱狂ぶりを改めて痛感したでます。富士講の開祖から、その教えを深めていった弟子たちによって、富士講は洗練されていったでます。』

『そうじゃな。「富士塚ゆる散歩」は、富士講についても分かりやすく説明しているんじゃ。本を書いた有坂蓉子という人は、美術家なんじゃ。興味深いのは、視点が面白いんじゃよ。富士塚はアーティスティックな存在だと。何よりも、ミニ富士に初めて触れたのは、富士急ハイランドにある「ミニ富士山」だったと書いてあるのには驚いたがのう。昨日、東日本大震災が起こって6年の歳月が過ぎた。「富士塚ゆる散歩」のまえがきには、東日本大震災について触れていてな、富士塚が崩れてブルーシートで覆われていたところもあったそうじゃ。天変地異に人はなすすべはないが、後世に残す努力は必要だと思うんじゃよ。』

『おいらたちにできることは限られているでます。けれども、努力が大事でます。講左衛門さん、今回は、どのような話を聞かせてくれるでます?』

『以前、富士講の系譜の中に、大我講がないという話をしたんじゃが覚えておるかのう。富士講の系譜について話をしようと思っておる。』